

イエスは 法なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕 142号

## アシュラム運動50周年

島 隆三



スタンレー・ジョーンズによって日本にアシュラム運動が始められて50年が過ぎた。1955年2月、ジョーンズ第4回の来日の初頭、天城山荘において3泊4日で日本最初の退修会（アシュラム）が開かれ150名が参加、聖霊の火に燃やされた一同は「誓約文」に署名した。そこには「…我らはこの歴史的機会において、全身全霊を献げ、相寄り相扶けて福音の証し人として起たん事を決議し、ここに受けたる霊火を携えて帰り同信の友を糾合し、救霊の運動に邁進せん事を期し、厳かなる神のみ前に連署して、共に再献身の堅き誓約を結ぶ」とある。そこには小崎道雄はじめNCC関係の諸師、福音派の牧師たちの名前も見える。これらのことから、戦後のジョーンズ伝道が広く超数派の運動として如何に大きなインパクトを日本と教会に与えたかが推察される。

その後、アシュラム運動は今日までいろいろな変遷を辿った。ジョーンズ師を迎えた最後のアシュラムは1971年（第10回全国伝道）であった。その伝道を終えてアメリカに帰国して間もなく師は病に倒れ、1973年1月、愛して止まないインドから89歳で帰天した。

ジョーンズ師亡き後も、日本クリスチャンアシュラム連盟委員会によって各地でアシュラムが開催され、また、平行していわゆる「榎本アシュラム」も各所で開かれて今日に至っている。

日本のアシュラム運動が半世紀の節目を迎えた今年、もう一度この運動の原点に立ち帰ることが求められている。スタンレーがアシュラム運動によって日本の教会に期待したことは、何よりも牧師と信徒の霊的成長であるが、以下の3つに要約できる。

1. キリスト者は、毎朝静まって祈りの時を持つこと。
2. 祈りの細胞を各地に作ること。
3. 伝道に力を尽くすこと。

祈りの細胞は、「朝禱会」その他の形で全国各地に拡がって今日に至っているが、「アシュラム運動」「こころの友伝道」「朝禱会」等、今一步の奮起が望まれる。（資料は海老沢宣道師による）

（日本キリスト教国仙台青葉荘教会牧師）

霊 想

キリスト無尽蔵の富から

日本イエス・キリスト教団  
芦屋川教会牧師



聖書エペソ人への手紙三章八節

- 敬愛する兄弟姉妹 クリスチャンアシュラム五十周年記念 ハレルヤ「イエスは主なり」「イエスは、実に甦られた」アーメン
- アシュラムとは、一口で言えば「集中修養会」「S・ジョンズ」「祈り」「主イエスへの全ったき明け渡し」などと言われます。そのとおりですが、核心的答えは『破れない御父と御子キリストとの交わりに入る』ことであると思います。(Iヨハネ 一・一四)実はここに『福音』があるからです。
- 我々に今必要なものは真の福音です。福音に生きる事でしょう。福音に生かされることです。世界に最も必要なものは真に力ある神の福音です。
- ロマー…二一三「この福音は聖

書の中で約束されたもので御子我らの主イエス・キリストである」IIテモテ二・八「いつも主イエスを思っていないさい、これが私の福音」とパウロは証します。この福音は生ける主イエスの満たしにあずかるためです。

○ 私は、岐阜市の牧師の四男で出生。父母の教会への献身的生活を見ていました。日本帝国敗戦の翌年十六歳、父母を亡くし、十一歳の弟と二人は日本歴史前代未聞敗戦の壊滅困窮の中に投げ出されました。私には何も無い。国が破れ、父母も家庭も、学校も、友だちも、金も仕事も夢も希望もなくしました。

○ 私にあつたものは無惨な心と死んだ魂でした。すなわち聖書の教える神を離れた罪が心と生活を支配している事実が現実でした。その罪の認識も聖書も知らずに、困った時の神頼みで「神様、私と弟とを救ってください」と恐怖の夜祈ったのです。どの神様に？もちろん父母の伝えた天地の創造主の神様にです。

○ 私は断われました。正しくない者が罪あるまま神様の前に出て聖い義罰がわかるだけで暗黒地獄におびえている時、聖書を思い出し、開いた所に『キリストの愛が強く迫っている。キリストがす

べての人のために死んだ事、生きている人は自分ために死んで甦ったお方の愛のために生きるためである。だれでもキリストにある者は、新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った全てのものは新しくなった」IIコリント五・一四―二一を読みました。かすかな光を見ました。聖霊の導きでしょう。神様への正しい道十字架による罪人への和解の恩寵の霊的はじまりを経験しました。現実の生活は貧困、混乱焦燥でしたが、間もなく教会から父の知人がさ迷う羊を尋ねるように私を勧誘に訪問されました。こうして御父のふところであるキリスト教会の交わりへ導かれたのです。

○ そこで健全な信仰の力と喜びは聖霊による交わりを通して成長することを見ました。私は清くない者との実感で押しつぶされそうになりました。偽善の姿に逃亡しようとも思いました。傲慢な心に平安はありませんでした。「心の清い者は幸いです。その者は神を見る」との主のことに祈りました。ヨハネ二〇・一二「聖霊を受けよ」「主の栄光を見つつ、主と同じ姿に変えられていく、これは霊なる主の働きによるのである」IIコリント三・一七―一八わたしは天父の約束の聖霊に来ていただくまで

安息はありませんでした。折り求めました。そして最大の敵悪魔に勝つ聖霊の恵みがなければ勝利の人生はありません。人はみな悪魔の欺きの力にやられて互いに愛しあえず、ついに離散分裂し殺しあうのです。

○ 私は十年前阪神淡路大震災で長男を失いました。三十六歳の彼は妻と七歳と三歳の子を残し、天の父の国の召しに呼ばれるように行きました。その時、天の父は言われました。「あなたがたは互いに愛しあいなさい」と。そして「わたしも息子を失ったよ」と慰め生かしてくださいました。「神はその独り子を賜ったほどにこの世を愛してくださいました。それは御子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである。」一人も滅びないで永遠の命、神の命、聖霊充滿の力によりこの悪の世に善をもって勝利し生きるように。「イエスは主なり」「主は、実によみがえられた」ハレルヤ



証立

砕かれた高齢礼拝者と  
なつて

藤原 冬子

幼い時より清い心を保ちたいと常日頃より思っていた私でしたが、非常に境偶の悪い複雑な家庭に嫁いでしまった。主は偶像礼拝を一番忌み嫌われるが、嫁ぎ先の姑はその仕事を職としていた。主人は理美容器具直輸入商を営んで、U.S.のボール社の日本代理店として長年ボール商品を売っていたが、利益薄な上、代理店剥奪を盾に多量に仕入れを強制され、あげくの果ては今裁判で闘争中である。聖書の中の出エジプト時代のボール信仰も民を惑わしたものであった。偶然にも同じ名前で主人を惑わすとは胸詰まる思いです。こんな中での高齢な主人が主に導かれた事は驚きと感謝です。一昨年の関東アシユラムの参加はちつよと勇気がいった。まず第一、事務所を空ける事。アシユラムがどんなものか解らない事等。私は箱根の空気を吸う事、主人は新幹線で駅弁とアルコールで旅行気分を味わう事が目的の軽い気分だった。到着と同時にタイトなスケジュールに「カッカッ」となっていた。今となると心の癒しの時だったのですが、「酒もタバコも禁止か」と自分で取り決をして嘆いていた。温泉も原因不明の足が皮膚病

になつており、他人と一緒に入れないとなつて。その時初めて、奥まった部屋で隠れた所におられる父に祈った。隠れた所で見えられた父は私の祈りに報いて下さった。最初の夜の食事はすねていたので食事がのどを通らなかつたが美味しかった。その夜は「有り難い！ こんなご馳走はない」と皆との会食を楽しんだ。夜のグループの祈りは私と離れて不安だつたらしいが、皆様の親切と他人の事をも一生懸命祈つて下さるのが感動したらしく感謝していた。他人様にお話しては恥な事が、皆様の前では正直に言える。それも「ほつ」とできたし、ビールも密かに買いくも外で吸えた。これも彼にとつては「ほつ」としたらしい。その感動から帰つてまもなく大阪のIBC（インターナショナルバイブルチャーチ）で洗礼を受けた。その時の彼は穏やかで、知らなかつた罪を罪と感ずる様になり、日々祈りを絶やさない。主のなさる事は、長い年月を経て私を慰めへと導いて下さいました。感謝。

小島十二師のメッセージを  
聞いて

田崎 民雄

二〇〇五年九月二十日  
小島十二師のメッセージを直接お

聞きしている内にルターやヨブの信仰を思い出しました。ルターはサタンを見て、「サタンよ、退け！」とそばにあつた墨壺を取り上げて投げつけサタンをおいだしたと聞く。強い信仰である。サタンをしてヨブの息子や娘、財産などを奪つて、ヨブの信仰をためし、「主は与え、又、取りたもう。主の御名はほむべきかな。」とヨブの口をとおして言わしめた。これらの試練をとおしてヨブの信仰を強めて七人の息子と三人の娘の死を乗り越えて神の前に立たせて下さった。小島十二師をも子供さんの死やまわりの人々の中傷やいじめをとおして、神に対してのかくれた弱い信仰を強めて、神の前に立たせたのみならず、多くの人々をはげましつづ信仰につれもどして下さった。神の愛に敬服いたしました。彼らがそれらの試練にあつたからとてあなたがた以上に罪深いからではなくあなたがたも悔い改めて神にたちかえらなければ、同じ様にあなたがたも滅びるであろうとイエスは言われた。

同じグループになつた大石嗣郎師の差別と区別のちがいをクリスチャンが理解でき、それぞれの教会で実行できるような祈りたい。遠藤總子姉がご主人や息子さんや回りの人々の為に教会員のために祈りたいと言葉に頭の下がる思いでした。薬科茂

兄、川村秀夫兄の信仰や回りの人々への愛による祈りにも感服いたしました。

最後に「私はだめだとか、私なんかとかと言うことは神を冒瀆することだ」と二、三年前のメッセージで語られたことをおぼえております。神は私を完全な人間として造つて下さつて、私の出来るかぎりのことをなすことを待つておられる。このことにも又、気づかせて下さったことを素直に受け入れ一人一人を受け入れられる自分となりたいとの思いにさせて下さった。スタッフの方々、ならびにメッセンジャーの人々に感謝すると同時に私のそば近くについて見守つて下さる神の子イエスに感謝しております。イエス・キリストの御名のゆえに感謝！

第十回富山アシユラムの報告

岩城 輝雄

九月十九日(祝) 九月二十日(火)に、主題「実を結ぶ信仰者」ヨハネ一五・一〜一〇 助言者、有馬歳弘 牧師(関東地区アシユラム委員)、会場、インテック大山研修センターで開かれました。第十回記念に会費を県外者を半額にしましたが、助言者を含め四名でした。県内は五名。実行委員会は年三回行い備えました。富山アシユラムは、アシユラム

センター関係者を奉仕者(助言者)としてお願いしていますが、若林節子師のすすめで、日本アシュラム連盟の方々にもお願いし、今回は三人目です。私自身は連盟の集会は迷いましたが、今回は期待しております。

まず、集会が始まる前に、全員がすでにそろいましたので、連盟の五十年記念のビデオを観て、又、四十年史・五十年史の資料を読んで、世界と日本のアシュラムを知りました。写真ではなつかしい方々の顔も見ました。又資料の中にはアシュラムセンター創始者の榎本保郎師のことも紹介されておりました。(後日、榎本氏の後、アシュラムセンターの責任を負っていた田中恒夫師が、十月五日に急に召天されたことを聞き、アシュラム運動にささげられた日々を思い出しました。)



き、アシュラム運動にささげられた日々を思い出しました。今回の富山アシュラムは出席者は少数でしたが、有馬先生の熱心な助言をいただき、静聴、恵みの時、恵みと交わりの時、不断の祈り、早天祈禱会等、み言と交わりを頂いて、今回も各自の朝の密室への励みになったと思います。

**第四十三回関東アシュラム報告**  
島津 吉成



日本アシュラム五十周年記念、関東アシュラムは二〇〇五年九月十九

日(月)二十一日(水)、山崎製パン箱根山荘に於いて開催されました。参加者は登録四十三名。今年には特に五十周年を記念して助言者として関西アシュラム委員長小島十二師を迎え、二度の「福音の時」のメッセージを感銘深く伺いました。プログラムとしては大石嗣郎師による開会礼拝、安藤脩師によるオリエンテーション、島津吉成師の開心の時、夕食の後は七つのグループに分かれて第一回祈りの細胞の時をもち、夜十時から連鎖祈禱に入りました。第一日はオリエンテーションに十分時間をかけ、初心者にもアシュラムの精神が十分理解できるようにしました。

二日目は大保富雄兄による静聴の時、朝食後第一回の「福音の時」、祈りの細胞(Ⅱ)。午後はファミリーアワーに於いて、一年間の諸報告を確認した後、特に今年日本アシュラム五十年の歩みと解説をDVDに集録(川村秀夫兄)したものを鑑賞、スタンレーアシュラムの沿革、活動、現状を知って、今後の活動への励ましを与えてくれました。夜は安藤師による賛美と証の集い。各グループから一名の立証者が立ち、感謝と喜びの立証、又有志の合唱等が披露されました。続いて第二夜の連鎖祈禱へ。

三日目は奥田二郎兄による静聴の時、朝食後第二回目の「福音の時」。

そして木部安來師によって充滿の時を持たれました。全員が恵みの分かち合いをなし、感謝に溢れ、祈りと、「イエスは主である」を三唱して終了しました。ハレルヤ。

**消息並地区アシュラム**

●石井 勇兄(日本イエス岡谷教会 々員百歳)

バルナバアシュラムを指導しておられた同兄は去る10月勝利の内に召天されました。ご遺族と教会に主の御慰さめを祈ります。

●第37回城北アシュラム

とき 06年2月11日(土)

●第13回東京新生アシュラム

とき 06年2月18日(土) 19日(日)

ところ 東京新生教会(東京久留米市)

立証 川村 秀夫兄(新宿西教会員)

各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.142をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10

日本クリスチャン・アシュラム連盟

振替口座 東京〇一〇〇一四五五八

理事長 大石嗣郎

編集人 横山義孝

定価 一部60円 千80円